

平成27年度企画提案型協働事業（第2次審査）
不要になったおもちゃの回収及びリサイクル利用

各委員の参考意見（ふせんの転載）

期待

- ・おもちゃの修理、及び清掃等を行いリサイクル品として甦らせることにより、子ども達に「物を大切に作る心」を育てる事に貢献できる協働事業だと思う。素晴らしい。
- ・物を大切に作る心の醸成、物作りを体験することで「作る事の大事さ」を実感できる事業だと思います。是非頑張ってください。
- ・子供たちとの会話を進めるためにも子供たちの場所に出向いた修理事業等を実現するのも良いのでは。
- ・課題が地域課題というより社会性の強い課題です。20ヶ置くだけでは、施設数からすると少ないです。3R推進がんばってください。

広報活動をもっと

- ・活動認知の方法がポスターだけで充分ですか。
- ・市と協働するよりも、自主事業として、広報力を強化することで、十分な成果につながるのではないか。

協力のメリット？

- ・事業の意義は理解できますが、修理したおもちゃの児童館寄贈だけでは積極的な協働のメリットが少ないと思います。
- ・行政が協働のパートナーとして必要である理由はどこにあるか。行政がお金を出す必要性がうすく感じられる。3RのPRに本当になるのか？
- ・市がかかえる課題との整合を図る必要があると思います。

市民ニーズ？

- ・不要となるおもちゃの数などが未知数であるため、事業の実施の必要性について疑問が持たれる。不要おもちゃの数の把握を調査するなどもう少し準備が必要である。
- ・過去3年間、回収された不用品のおもちゃの修理不能の件数は、持ち込まれたおもちゃ全体のわずか3%でしかない（驚異の完治実績）。今後、修理件数が増えても、この完治実績を維持できるのか？
- ・団体としての活動機会、事業規模の拡大についての熱意は感じましたが、市民ニーズの規模の把握が不明瞭ですので、協働事業としての採用は難しいと考えます。団体の独自事業としての取り組みが相応しいのではないのでしょうか。
- ・良い企画であると思うが、未知数（寄贈者数等）の部分が多少、懸念されるが、1年間の実績を見て、継続するかどうか判断し、今回は企画が妥当であると判断する。
- ・回収率の目標を明確にした方が良いのではないのでしょうか。